



あゆみ

学校だより 3月号

親子で食事 親子で会話
親子で読書



校長 鈴木 学 平成26年3月13日

6年生から5年生へ 受け継がれる伝統

3月に入り、新米の登校班長にも自信と落ち着きを感じられるようになり、朝の清掃ボランティアも6年生から5年生に引き継がれました。

4日(火)には、代表委員と5年生が中心になって準備を進めてくれた「6年生を送る会」が行われました。5年生は、各クラス5つずつ(計15)のゲームを全員で担当してくれました。よく考えられた多彩なゲームにも感心しましたが、ゲームの順番を待っているグループのために、廊下で紙芝居を披露したり、楽しくできるお絵かきコーナーを設けたりといったサービスにも驚かされました。このような発想力と行動力の豊かさは5年生ならではです。

この会が終わると、児童も職員もいよいよ卒業の日が近づいてきたことを強く意識し、学校全体の雰囲気が、どことなくしっとりしたムードに変わります。



ビー玉迷路ゲーム

5年生は、3クラス、83名。睦小で一番の大所帯ということもあり、活動的なパワーを感じます。落ち着きを感じさせる6年生とは、またひと味違った魅力をもった5年生ですが、もう最上級生への心の準備は万端です。

卒業おめでとう 6年生

養護教諭が示してくれた資料によると、今年の6年生は、入学当初と比べ、平均で身長が35.4cm伸び、体重が23.0kg増えています。ずいぶんと大きくなりましたね。

6年生のよさは、何と言っても真面目さです。恥ずかしがらずに挨拶が1番よくできたのも6年生でした。運動会やその他の行事で見せたがんばりや責任感の強さにも感心しました。さらに、真剣な授業態度も下級生の模範となるもので、立派な「睦小の顔」でした。

正に、体も心も大きく成長した6年間でした。睦小をよい学校にするためにがんばってくれた6年生に、心より「ありがとう」を言いたいと思います。

先生も感動！なわとび集会より

二人の先生の週プロに、2月に実施した「なわとび集会」での感動の様子が書かれていたので紹介します。

休み時間などにみんなで練習して、最高記録もどんどん伸びてきていた。また、引っかかっても「ドンマイ!」、上手に飛べたら「いいよ。その調子。」など声をかけ合う姿が見られ、長縄をやることでクラス全体が、さらに温かい雰囲気になってきた。

本番当日は、出張で縄を回してあげられなかったのがとても残念だった。

月曜日の朝、教室に行くと、黒板に「〇〇先生へ」という手紙が貼ってあった。裏返すと、子どもたちからの寄せ書きになっていて、優勝したときの嬉しい気持ちが、私へ報告する形で書かれていた。クラスの子の優しさに感動した。

当日の業間の練習では、100回を超える新記録を出し、大変盛り上がっていた。本番の昼休み、気合いが入り過ぎたようで、回すのも速くなったのか、つかえてしまった。しょんぼりする子どもたちだったが、「一生懸命やったのだから、いいんだよ。」と話すと、ニコニコ顔に変わった。素直な子どもたちの表情を見て、私の方が思わず涙ぐんでしまい「先生は負けず嫌いだから・・・」と言って笑ってしまった。つかえてしまった子の感想にも「楽しかった。がんばった。」と書いてあったのでほっとした。クラスの団結や仲良くなるという目的に近づけたように思う。

この他にも、6年生とのお別れ式(1・2年生が参加)や卒業式でのクラス代表を選ぶときに、4月に転校してしまう子をみんなで推薦したクラスや、まだやったことのない子を優先にして譲ってあげたクラスなどがあり、やはりこのような子どもたちの優しさに担任が感動していました。

本号に裏面はありません